



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒーアワ : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石 叫

「日本柔道の凋落」

「フランスに日本柔道は奪われた」というタイトルが目飛び込んできた。『文芸春秋』(5月号)にあったものだが、謙遜になることの大切さを学びたい。日本柔道はいま危機にある。一九八八年ソウルオリンピック以降、徐々にその実力は低下して、ついに二〇〇九年ロッテルダム世界選手権では金メダルゼロに終わった。この柔道界には深刻な問題がある。柔道事故である。中学、高校における事故の死亡者は八十三年からの二十八年間で実に一四名に上る。年平均四人以上が死亡している。その他にも、多くの子供たちが植物状態や高次脳機能障害に悩まされている。今年四月には中学で武道必修化がスタートした。およそ七割の学校が柔道を選択するというが、親の心配は人事ではない。

柔道の世界的な発展に最も大きく貢献したのはフランスである。一九〇五年の日露戦争で日本が大国ロシアに勝つと「日本兵士はジュウジュツを身につけているから強い」と信じられるようになり爆発的ブームを呼んだ。フランスの指導者は子供に柔道を教えた。子供相手だから何よりも安全面に気を使った。一九五一年に柔道指導者に死亡事故があり、それを重くみたフランス政府は指導者に国家資格の取得を命じた。高等教育の後に二年間勉強してようやく得られるほどのレベルだという。一方、フランスのスポーツ界には「黄金の五つの規則」がある(一、ケンカはすぐ止める。二、絶対に無理をさせない。三、問題は告知する。四、医師の診断を受ける。五、事故は隠蔽しない)。こうした結果、柔道練習中に死亡事故が起ることは一切ない。事故は主に頸椎損傷であるが、基礎体力ができるまで、首の筋肉をつけるために受身と寝技をしっかりとやらせるといふ。二〇一〇年現在、日本の人口の半分のフランスの柔道人口は日本人の三倍以上だという。ある日、フランスから安全なプログラムを知ってもらおうと講師を呼んだ。しかし、日本の柔道上層部は彼に聞こうとはしなかった。「日本は試合に勝つことだけを考えている。我々フランスの柔道は多くの点で日本よりクラシカルだ」とその講師は言いきった。著者の柳澤健は言う「嘉納治五郎の理想はフランスにある。残念ながら日本にはもはや存在しない」。

聖書に「だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい」(一コリント十・12)とある。とかく柔道のようなお家芸は、その伝統のゆえに自尊心が強く、他者に聞く耳をもたない。それが凋落の要因である。倒れないように、どんな人にも心を開いて謙虚な心で聞けと、主が言われるものを!

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在は日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。

私たちの教会は一八世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

